平成３０年第２回島田市総合教育会議議事録

日　時	平成30年10月18日（木）午前10時00分～午前11時44分
会　場	島田市役所　第２委員会室
出席者	染谷絹代市長、濱田和彦教育長、牧野高彦委員、秋田美八子委員、原喜恵子委員、磯貝隆啓委員
欠席者	
傍聴人	19人
説明のための出席者	畑教育部長、平松教育総務課長、池谷学校教育課長、駒形戦略推進課長
会期及び会議時間	平成30年10月18日（木）午前10時00分～午前11時44分
議事	（１）教育環境適正化検討委員会からの提言について ア　教育環境適正化に向けた基本的な考え方１～５について イ　教育環境適正化に向けた基本的な考え方６、７について ①北部地区について ②初倉地区について

開　　会　　午前10時00分

染谷市長　皆さん、おはようございます。

ただいまから第２回の総合教育会議を開催させていただきたいと思います。

開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まずもって、本日皆さん方大変お忙しい中、ご出席を賜りましてまことにありがとうございます。季節はもう秋になって、夜になれば虫の音も聞こえ、多少の暑さは残っていますけれども、過ごしやすい日々が続くようになりました。本当に季節の移り変わりは早いなあと実感しているところです。ことしの夏はとっても暑かったものですから、皆さん方の体調は大丈夫でしょうか。そしてまた、ことしの夏の暑さは、気象庁が災害に匹敵するという認識を示すほど異常なものであって、今は異常と言っていますけれども、多分これが異常でなくなると、毎年このような猛暑が襲ってくる気候になってくるのかもしれません。

こうした中で、皆様もご存じのとおり愛知県の豊田市では小学校１年生の児童が熱中症で死亡するという痛ましい事件が起こって、それをきっかけに子供の命を守るためにも、喫緊の課題として対応が求められるということになりました。この猛暑に対しては、私は少なくとも児童・生徒が学校生活を過ごす時間の長い普通教室への対応につい

ては、財政事情が大変厳しい状況であっても、最優先にすべきであると判断をして、来年の夏までに空調設備の整備を完了するように方針を決定したところでございます。きのう業者に対するプロポーザルの公示を行いました。１カ月後ぐらいには、入札の結果、契約にまで結びつき、島田市は確実に来年の夏までに各普通教室にエアコンを設置できるようになると思っております。

今後の島田市の教育は、第四小学校の改築、そして第一小学校の改修または改築、ＩＣＴの環境整備など、これから約10年ぐらい、空調機器の問題も合わせまして、大変大きな予算、大きな事業が続いてまいります。子供たちが安全・安心に勉強に打ち込める環境整備を進めていくために、教育委員の皆様方のお力添えをよろしくお願いをしたいと思います。

では、私に続いて教育長からご挨拶お願いいたします。

濱田教育長　皆さん、おはようございます。

まず最初に、大変大勢の傍聴の皆さんがお見えになってくれたことに感謝申し上げます。

本日の議題は、適正化検討委員会から出された提言書について理解を深めると共に議論をしていこうという内容ですから、大変皆さんの関心を引いているところではないかなと思います。少し、きょうの議題に関わることについてお話したいと思います。

まず最初に、平成27年に小学校・中学校の在り方検討委員会がスタートしています。その委員会から28年９月に提言書をいただきました。その中で、例えば地域総ぐるみとか、それから夢育・地育、そして、そのようなことが一つの島田市の教育の理念ということで明確になりましたし、それからその話し合いの中で、複式学級が連続することについては教育環境としてかなり課題が大きいから、そのような場合については学校再編を検討すべきということが出されたと思います。それを受けて、この教育環境適正化検討委員会がスタートしました。29年、30年と２年間の協議を行った上、９月に最終報告書をいただきました。この内容につきましては、後ほど学校教育課から詳しい内容が説明されると思いますから私からは省きますが、この２年間での話し合いの成果というのは大きかったと思います。

一つは、この提言書のサブタイトル、提言書の下に書かれています子供を最優先にした学校づくりということが、検討委員会の全委員の皆さんに共有されるところとなった。皆さんにこれを共有していただいた、ご理解をしていただいたということが大きかったと思います。そして、委員総意でこの提言書ができたということは、大変大きかったのではないかなと思います。提言書は、統合案について複数の提案もあり、それから時期について明言がされていないことが課題として残っていると思います。今後の検討に委ねられた部分もありますから、

そのことについては教育委員会としても今後詰めていかなければならないと思います。

ただ、委員の皆さんにも、そして傍聴の皆さんにもご理解していただきたいことは、学校再編は特定地域、例えば北部とか初倉の問題だけ、その学校だけの問題ではなくて、市全体の問題だということがうたわれています。そのことについてのご理解と、それから計画策定は島田市、要するに本庁サイドと教育委員会が積極的なリーダーシップを発揮するというようなことも示されていますから、そういう意味では本日の市長と教育委員が共に席を並べて協議するということの価値というか意義というのは大変大きいと思っています。これから細かいことの検討が進んでいきますが、そのような検討に向けてきょうの協議が今後の検討におけるはずみになればと思っています。ぜひ皆さんの活発な協議を期待しているところです。よろしくお願いします。

染谷市長　ありがとうございました。

［　議　事　］

染谷市長　それでは、次第に従って議事に入りたいと思います。

今回のテーマは、島田市教育環境適正化検討委員会からの提言についてであります。

先月20日に、島田市教育環境適正化検討委員会から島田市教育委員会に今後の島田市の教育環境の適正化に向けた提言書が提出されました。本日はこの提言を受けて、今後の島田市の教育環境について皆様と意見交換を行い、方向性を示していければと思っております。

それでは、学校教育課から提言の概要について説明をお願いします。

池谷学校教育課長　それでは、提言書の概要を端的に説明させていただきたいと思います。

先ほど、教育長の挨拶にもありましたように、平成28年に島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会から提言を受けました。平成29年度から児童・生徒の適切な教育環境について協議検討を行ってきましたが、先月の９月20日に最終提言書が武井委員長から濱田教育長へ渡されました。

それでは、提言書をご覧ください。

１ページのところ、第一章、島田市の教育の現状と課題については、平成29年度の北部４小学校の総出生数が18人で、平成36年度には北部３校で複式学級が生じることなど、島田市の現状が書いてあります。

３ページ、第二章、アンケート及び意見交換会の概要につきましては、多くの保護者がクラス替えができる適正規模を望んでいることや、北部地域や初倉地域別の集約結果が書いてあります。

続きまして、４ページ。

第三章、教育環境の適正化に向けた基本的な考え方については、子

供のニーズを最優先し、島田市教育委員会と島田市が緊密な連携をとることなど、７つが提言されています。

続きまして、５ページ。

第四章、学校再編の方針案は、そこにありますように北中学校区２案、初倉中学校区１案が提示されています。

11ページへ行きまして、第五章は新たな学校のロードマップについて書かれています。本日の総合教育会議でご意見をいただき、それを受け、今月の定例教育委員会で島田市の教育環境適正化方針を決定していく予定です。その方針の決定後、書いてありますように、仮称ではありますが、島田市立学校再編計画策定委員会と島田市立学校カリキュラム等検討委員会の２つの委員会が設置されます。特に、島田市立学校再編計画策定委員会については、初倉地域と北部地域について議論を速やかに進めることや、学校配置及び校舎の利活用を含む基本方針を2019年８月をめどに策定し、2020年３月までに計画の骨子を固めるよう記述されています。

染谷市長　ありがとうございました。

この提言書を読みますと、第三章に教育環境の適正化に向けた基本的な考え方として７つ提言されています。これが今後の方向性を示す上での核となる部分だと思いますので、これについて協議をしていきたいと思います。

まず、１から５までについてご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。提言書の４ページ、基本的な考え方の１から５までについてでございます。皆さん方、もういろいろなお考えがあるのかと思います。

では、牧野委員、いかがですか。

牧野委員　提言を見させていただいて、大きく３つ、まずは感じました。

天体の星が１日に１度ずつ変化していく、本当に少しずつしか変化していないのですが、人口の変化というものが2015年の国勢調査で１億2,700万人、それで40年後には想定ですけれども、日本の人口が9,000万人を下回るのではないかと言われていることが、毎日毎日少しずつ進んでいっているということを、この数字を見ますと島田市も現実となってきているということ、正確な数字もいただいています。ことしは各学年に800から900人の児童数がおりますが、ことしの出生数では既に200人以上激減した数字が島田市においてもあるということで、この数字がすごく身にしみます。

それから、アンケート等、地域の方がどのようなお考えをしているか、「うちの地域は絶対そのまま残してほしい」よりも、この１番にもニーズと書いてありますが、子供について何が一番大切かというのを先によく考えていただいている市民が大勢いるんだなということがアンケートの結果からよく分かりました。

それからもう一つ、平成28年のときにも話が出ておりました複式学級の話、それから単学級の話をさらに突き進めていただいて、やはり複式の問題、それから単学級の考え方が我々も学校訪問で学校を見させていただいていますが、本当にこのやり方でいいんだろうかって思ったこともあります。それが皆さんの共通の意識として複式学級、それから単学級をクリアして適正な規模にしたいということについて、確認ができたことが３つ目です。

染谷市長　ありがとうございます。

磯貝委員　資料を見させていただいて、やはり現実は厳しいんだなと率直に思いました。これは教育、今回出ているのは学校の統合の問題ですけれども、でもこれは島田を取り巻く、牧野委員からも発言がありましたけれども、例えば山間地域、人口が減少していくところを、市政としてどのように扱って対処していけばいいのかという大きな問題の中で、では、学校はどうしようという一つの解決策を模索する過程のように思います。アンケートも見させていただきましたけれども、特に伊久美地域などでは再編に反対されるような意見も多く出ているところを見ると、自分の地域の今後のことをどういうふうに市として考えているのかな、私たちはどうしていけばいいのかなという、学校だけではない大きな問題のような気がいたしました。

今回の提言のところに戻りますけれども、この問題については前回の教育委員会定例会でも学校教育課長から説明していただきましたけれども、2019年８月をめどに策定して、20年3月までに計画の骨子を固めていきたいという、この提言の方針を説明されておりまして、私はやはり丁寧に地域の人たちと市が一緒になってやっていただければありがたいと思います。

その中で具体的には、この副題にもありますように、子供たちに悪い影響が出ないような話の進め方といいますか、アンケートの中では、例えばご父兄の中で反対される方がいらっしゃると思います。そういう方が例えば自分の子供に、お父さんはお母さんは反対だけれども、というようなことが耳に入ったりすると、現実的にあり得ると思うのですけれども、子供たちに悪い影響が出ないとも限らないということをちょっと心配しております。

あと、第三章の特に気になったのは、５番目に政策的優遇措置を講じというような文言がありますけれども、特に全国的に言われていることかも分かりませんが、市のほうから例えば学校統合に対して優遇策と言いますか、そういうものを行政から与えるというのはどうもうまくいかない傾向があるということをちょっと耳にしています。ですから、そこにいる人たちが主体的になって市と関わり合って何かを起こしていくというやり方が望ましいのではないかなと考えています。

あと、最後ですけれども、先ほど学校教育課長からもご説明ありま

したように、この計画策定のための組織、２つが検討されていて、一つは学校再編計画策定委員会、あともう一つはカリキュラム等検討委員会となっていますけれども、一つは計画を立て、箱ものを中心に考えていく、それでもう一つはその中身を考えていくということですけれども、11ページに記載されておりますけれども、相互の委員会の方向性が相反しないようなやり方が望ましいと思います。ですから、例えば委員会をどうしても２つ作るということであればメンバーの方々半数ぐらい共通されたような委員会を作るとか委員にするとか、一つ工夫されることではないかなと思います。

いずれにしても、今よりももっと子供たちの教育環境が良くなるのだという、デメリットよりもメリットを強調するような方向性で実現していかなければいけない問題だと思いますので、これからの運営を丁寧にやっていくところが重要なのかなと感じました。

染谷市長　ありがとうございます。

私が今考える市が施策的優遇措置を講じという中身というのは、小中一貫教育の中で小学校高学年の子供たちが教科担任制で教育を受けることができるとか、あるいは特色のある教育という形でＡＬＴを重点配置するとか、あるいはＩＣＴ教育の先進校としてやっていくとか。こういった教育における政策を重点的にやることを特色づけると、まさに磯貝委員のおっしゃったメリットを強調するというところにおいては、ただ統合しただけで新しい学校の特色は何なの、市として教育委員会としてどんな学校を作りたいの、島田の教育をどこにもっていきたいのというところをしっかりメッセージとして伝えられなければ、親御さんたちも判断に困ると思っています。

そういう意味でも、政策的措置ですので、例えば統合される地区において、ほかの地域振興を考えようとか、そういうことを私は言ってはおりません。

では、秋田委員、いかがでしょうか。

秋田委員　資料を見せていただくまでは、もう少しシンプルな話なのかと思っていたのですが、資料を拝見してこんなにもいろんな要素が絡んで複雑な話なのだということに驚いております。子育て支援の関係で小さいお子さんを持つ保護者の方とお話をするときに、学校の規模が小さくなる、お友達が少なくなることを懸念して、大きい学校の地域に住むことを考えるという声も聞きますと、子供を第一に考えると、やはり再編というものは前向きに考えていかなければならないことだと思いますし、その再編を進めていくことが逆に地域に住む方を減らしていかない一つの手だてにもなっていくのかなと感じています。

今、地域住民の方のご意見のアンケートを見せていただいても、地域によっては再編を不要と考えている方が決して少なくない地域があります。こういう事業を進める場合に、全員が賛成ということはあり

得ないことだとは思うのですけれども、ただ全員の賛成は難しい中にあっても、地域の方に納得をしていただけるような形で進めていかないと、統合した後、学校運営ですとか、子供たちが実際学校に通っていくときに、保護者の方と学校との関わりというのが日常的にあって、そこがウエイトとしては大きいと思いますので、理解をしていただけるような働きかけ、丁寧な働きかけが必要かなと感じています。

染谷市長　ありがとうございます。

原委員、いかがでしょう。

原委員　児童・生徒数調べを見させていただいただけでも、やはり大きな人口の減少があるというのが数字的にはっきり見えることを考えると、学校の環境を整えていくという再編の必要性は本当に迫っているんだなと感じました。

これまで、平成27年の在り方検討委員会から始まって、適正委員会まで時間をかけながら丁寧に丁寧に取り組んできてくださったことは、大変大切なことだと思いました。やはり大きな問題ですので、地域の方、保護者の方の考え方を知る上で、それから同意を得ながら一緒に歩調をそろえて進んでいくというこれまでの取り組み方というのは大変評価できるのではないかなと思いました。

それを受けて、これから具体的な方向に入っていくわけですけれども、私も一番願うのは、早急な取り組みではなく、地域の方、保護者の方の心を聞きながら、そして同意を得ながら同じ気持ちで進んでいく。それらは、基本はやはり一番は、子供を最優先にしたという願いのもとに進められていくことが望ましい姿ではないのかなと思います。秋田委員からもありましたが、アンケートの結果などを見ましても、多くの方がそろって同じ気持ちというわけでもないと思いますので、そこの取り組みが一番大きな難しいところではないかなと思います。だからこそ、丁寧にやっていくことが必要だと思います。

私も昔、統合になった学校の保護者の方のお話を聞いたり、過去勤めたことがあるのですけれども、やはり保護者が願うことは学校は自分たちの心の支えであるから、おらが学校という思いが強いですし、そこに子供たちが集うことによって地域が明るくなるというのも、そこに住んでいる人たちの本音だと思います。現実は確かにこうなのですが、人の心の本音としてやはり自分たちの地域の子は自分たちで育てていきたいし、自分たちのところに宝である学校があってほしいというのは正直な思いだと思います。ですから、その気持ちをもう一歩前に進めて高い見地からいろいろなことを考えられるような働きかけというのが重要ではないかなと思います。

学校も、小さい学校は小さい学校なりに子供のよさも十分伸ばせますし、それから何よりも地域を素材とした学習ができるというところが大きな財産だと思いますが、幾つか学校が集まった場合にそこのと

ころをどうしていくかを考えていく必要があると思いますので、そういう意味では先ほど説明がありました教育カリキュラム等を中心とした組織などの編成も重要な意味を持ってくるのではないかなと思いました。

染谷市長　ありがとうございました。

教育長、何かありますか。

濱田教育長　在り方検討委員会、それから適正化検討委員会の中で、人数が余りにも少なくなったとき、特に複式が連続するときの課題ということが言われたと思います。これは課題があると思います。

かといって、小規模校が全て否定されるわけではないと思うのです。私自身も笹間に勤務をしました。そのときに小学校は複式だったし、それから中学校も全校生徒が11人という大変少ない状況を経験していますが、小規模には小規模のよさもあります。例えば、学年だけの活動ではなくて全校活動が大変取り組みやすいために、いつも低学年の子が高学年の子の姿を見る、要するに上級生のモデルをいつも間近に見ながら生活するために、自分は３年生になったときにこうなりたいというようなことが明確に見える。ですから、子供たちの成長が確実に得られるということ。それから生徒と教師の間が大変近いものですから、密な教育が施されるということもあると思うんです。

でも、提言書にもありますように、課題もきちっと理解していかなければならないと思います。例えば、サッカーの授業を考えたときに、全校生徒で例えば20人いたときに、１年生から６年生まで混合のチームでサッカーをやれば、できないことはないと思うのですが、余りにも能力差がありますと、６年生が思い切って蹴ったボールをとった１年生の子がけがをするということも起こりかねないんです。ですから、やはりある程度の人数がいる中で切磋琢磨する環境は教育にとって大事ではないかなと思います。少ないことのメリットはありながら、少ないことのデメリットもきちっと理解しながら、こういう問題は取り組んでいかなければならないと思っています。

それからもう一点。

地域の理解を得ながらというお話が何人かの委員から出ましたが、これはとても大事なことだと思います。

でも、では、地域の意見、全員の理解を得るまで待つのか、どこまで理解を得られたら、例えばこの統合の問題、適正化の問題が進むかということも考えなければなりません。笹間の例をたびたび出して申しわけないのですが、笹間も何回か統合問題がありました。そのたびに地域の反対で先送りにされてきました。その結果、平成22年に中学校の人数が２人という現状が見えてきたときがあります。それは、複式もどんどん進めますと、ある学年がいなくなるということが起こります。そうすると飛び複式が起こります。どういうことかと言うと、

１年生と２年生の低学年だけがグループを作るのだったらいいのですが、１年と３年とか、３年と５年とかという複式も実際にはやらなければなりません。大変能力差があるものですから、課題も大きいです。これが一番極端な、前後の学年がゼロになったときには、本当にかわいそうな状況が生まれてしまうということも実際にあります。それが笹間の現状でありました。

ですから、保護者または地域の理解を完全に得るまでは統合できないということについては、やはり考えていかなければならないと思います。そこは、教育委員会として、または市としてどこかで決断をしてスタートしていかないと、子供の利益にはならないということも皆さんご理解していただきたいと思います。

染谷市長

ありがとうございます。

では、私からも皆さんの意見を伺って、感じたことをお話させていただきたいと思います。

地域、保護者の同意を得ながら進めていくという方針の中で、既に４年かけています。この先、例えば５年、６年となると10年。それでは決めた世代の人たちはもう学校にはいないんです。実際、保護者の方々に会って直接話をすると「早くやってほしい」、あるいは「いつ統合されますか」「今、未就学児童がいるんだけれども、うちの子が学校上がるとき、どうなりますか」という方々も多いです。やはり当事者意識を持って、その方たちの判断が生きるということは、その方たちが在学している、つながりのあるうちにということも視点として、そうでないと統合するときには自分たちの意見ではなくて、昔決めた人の意見で自分たちは統合するんだという話になってしまうのもまずいなと思いました。

それから、地域は本当に学校に対して、地域の拠点として子供たちにさまざまな教育のお手伝いをしてくださっています。そのことは本当にありがたいと思っていますし、これからもそういった地域の特性、地域のよさが生きるような教育の方針をしていかなければならないと思っています。

と、同時に、やはりある程度の規模、学校区別の児童数の推移ということで、きょう資料を皆様にお配りしましたが、去年生まれた子供たちが中学生になるころには、今より200人以上減る。これ、人口25％強のカットがある中で、学校の数をこのままにしておくいうことは、子供の教育環境としてよりよい環境が保てるのかということ、そして学習の中身も今、アクティブラーニングとかさまざまな多様な価値観に触れるとか、それから部活動も、やりたい部活ができない、子供の数が少なくて部活動の数が減ってしまっている、さまざまなことを言われる現実の中で、子供を本当に真ん中に考えたときに、これからの時代を生き抜く子供たちを育てる環境ですから、島田の教育として子

供たちにふさわしい教育環境を与えると共に、地域力を生かす教育がどうすればできるのかを考えていかなればならないと思っています。

それと、もう一つの大事な視点は、例えば統合された後にその学校の校舎なり敷地をどう使うのかというところまで、住民と協議をして、その納得のもとに統合の時期を決めるとなると、そこからまた３年、４年。そうすると、学校の校舎も例えば今民間が工場として使いたい、事務所として使いたいという地域に根差した雇用も生み出すような使い方もできる中で、企業は３年も４年も先のことは決めてくれない。せいぜい来年が再来年のことです。そうすると、統合するまでの間に、地元のみなさんと真摯に話し合っていくという態度も求められるのではないかと思っておりまして、跡地の活用でも幅広い選択があると思っております。

秋田委員からいろんな要素が絡んで大変複雑なということに驚いたというお話がありましたが、実は私どもが持っている情報が本当に地域の皆さんに伝わっているかというと、学校がなくなるということに非常に力点が置かれて、地域に学校がなくなってしまうということに対する、「いや、反対だよ」と。長い歴史のある学校の中で、拠点がなくなれば地域が寂れるというところに特化した意見も多くて、やはり地域の方々に現状とこれからの島田の教育、どうもっていきたいんだということをしっかり伝えていく場を持っていかなければならないと強く感じているところであります。

では、この点について少しお話をいただきましたので、どうでしょうか、今、皆さん一人一人から意見を伺って、意見を聞いただけではなく、皆さんの意見を踏まえて、どんな形で今後もっていくかということについて、北部も初倉地区も、これまでも説明会はしております。しかし、答申がきちっと出たことを踏まえて、もう少し地元に入って、地元の皆さんに現実を知っていただく、そしてさらなるご意見をいただく。これまで、地域での説明会といいますと、地域の方が多く参加しておられて、なかなか保護者の方たち、子供がいる夜の時間は難しくて、保護者の意見が生の声がどういうものなのかをまだ十分にとれていないような気もいたします。そういったことも踏まえて、北部・初倉地域、もう少し入って地元の声を聞いてみることをしてはどうかと思いますが、その点についてはいかがでしょうか。

ご意見がありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

教育長、何かありますか。

濱田教育長　保護者の意見が明確なのは、北中の統合についてはほとんどの保護者が、または地域が反対はしていないということがあると思います。そういう意味では、ある程度進めやすいかなと思いますが、やはり一番保護者の意見の把握が十分でないのが初倉地区、特に初倉南小学校の保護者の思いだと思います。提言書の中には湯日小学校をまず統合

して、時期を見て初倉南の統合とあります。でも、初倉地区の自治会の皆さんとお話をしたときに、町内会長か自治会かはっきり分かりませんが、そういう地域のリーダーとなる方からも、初倉地区は初倉南と湯日小学校同時統合も考えるべきだというようなお話も実際聞いています。そういうことを考えますと、初倉南については、もう少し保護者の意見を、より多くの意見を聞くことは大事ではないかなと思います。初倉南は、保護者の中には自分ごととして認識していない方もおられるのではないかな。そういう意味では自分ごととして考えていただき、その中で統合問題についてどう考えるか、そういうことも必要ではないかなと思います。

染谷市長　分かりました。

では、教育委員会と協議をさせていただきながら、今、初倉南小学校区という具体的な場所のお話も出ましたので、この説明会といいますか、意見を伺う機会をこれから作ってまいりたいと考えております。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

ありがとうございます。

では次に、４ページの６と７について、児童・生徒数の減少による適正規模化と小中一貫教育等についてご意見を伺いたいと思います。

これについては教育環境適正化検討委員会から具体的な提案がされております。北中学校区と初倉中学校区の２つの学区であります。この点について事務局から補足説明がありましたらお願いをします。

池谷学校教育課長　提言書の５ページをお開きください。

北部地域につきましては、第四章の２のところに、北部地域の再編について説明が書かれております。

平成30年３月の中間報告では、北部地域の小学校を統合し、北中と一体型小中一貫校を示した案があり、全部で３案となっておりました。

しかし、北中との一体型小中一貫校につきましては、統合してもすぐに１学年20人を切ってしまうことなど多くの課題があったため、３案から２案に絞られたものになっております。

６ページの（１）の①の案では、できるだけ早い時期に北中と島一中を統合し、その後島田一小の改修に合わせて北部４小学校を統合するものとの説明があります。伊久美小学校については、通学時間や特認校のことを考慮して判断する必要について記述されております。

また、（２）では②案のメリットについて書かれております。

これについては、島田第三小学校を含めた再編計画が必要となるため、多くの議論が必要だということが書かれております。

続きまして、７ページの初倉地域について説明いたします。

将来的なことも見込み、中間報告では２案だったものが１案となって示されました。提言書の（１）の再編方針案には、湯日小学校は早

期再編を望む保護者が多いため、先行して初倉小学校と統合するのが望ましいと説明されています。さらに（1）の最後の部分ですけれども、初倉小学校と初倉南小学校の統合については、現時点ではハード面の問題があるため、地域住民の意向を踏まえた慎重な議論を重ねていくことの必要性について書かれております。

染谷市長　ありがとうございました。

それでは、まず北部地域について皆様どのようにお考えでしょうか。北中学校については、アンケートや意見交換会において、島田第一中学校との早期再編を望む声が多いと提言書にもありますが、いかがでしょうか。

では今度、原委員からいかがですか。

原委員　北部地域のことですね。

北中学校と島田一中の統合については、北中学校区の方たちの希望も多いということを考えると、やはり早期に実現するべきではないかなと思います。北中学校は大変環境にも恵まれて、生徒も素直で勉強も本当に一生懸命やっていて、健やかに伸びている生徒だなと思うわけですが、やはり人間関係的なもので問題を抱えやすい環境でもあると思います。そういう意味でも中学生の大切な心の成長期に、大勢の人ともまれて早く自分のよさが発揮できたり、新しい人間関係が構築できたりするような環境は必要ではないのかなと思います。

染谷市長　秋田委員、いかがですか。

秋田委員　再編について、北中と一中が合わさることについては、再編の方針案として、希望される保護者の方も多いということなので、そこはいいのではないかなと思うのですが、方針案２に中高一貫として北中と一中が統合になって、二小、三小のところでまた新しい中学ができるという案もありまして、こういう案が出ていると、北中と一中の統合を考える際に、そちらも並行して考えていかなければいけないところになってくるのかなと思います。そうなると、早急な再編が難しくなってくるのか、それか段階を追ってそういう形にしていくという手もあるのかなと思います。私は第一中学校の学区なので、以前から第三小学校の方たちは、小学校６年間一緒にやってきた子供たちが別々の学校に、中学になると行かなければいけない、それはやはり心が痛むという話も聞いていますし、今子供たちが減ってきている中で、一中、二中と振り分けられると、かなり人数も少ないということが起きてきています。しかも、三小の子たちは、一中へ通うにも二中へ通うにもかなり距離もありますので、子供のことを第一に、最優先にしたと考えると、そこも今回再編を考えるに当たって避けては通れないところなのかなと感じています。

ただ、今まで北部と初倉の話ばかり出てきていて、ここで急に二小、三小の方たちの話題が出てきているように私は感じているので、多分

当事者の子供たちも保護者の方も、再編に自分たちが関わる部分にいるという意識はないと思うので、その辺りについては、必要性は感じますけれども、どういう段階を追ってやっていくのか、ちょっと気になるところであります。

染谷市長　分かりました。

磯貝委員、いかがでしょうか。

磯貝委員　この北部地域については、アンケートから見ると、やはり再編を希望しているという方の数が多いものですから、一中との再編を望むという形で進めていくのがいいのではないかなと思います。初倉地区と比べて比較的スムーズにいけそうなアンケートの内容なのかなと思います。

少し一部気になるのは、やはり伊久美小学校区で再編不要だという意見が若干多いので、この辺りは策定に当たり考慮すべき点として、隣接学区の川根地区への入学とスクールバスを利用しても時間もかかるし、あるいは児童・生徒についてはその対応が必要と書かれておりますけれども、そういうことが必要なのかも分かりません。比較的、早く父兄の希望も多い中で、やっていけばいいのかなと考えています。

染谷市長　ありがとうございます。

牧野委員、いかがでしょう。

牧野委員　北部の小学校の保護者と、島二、島三の小学校の保護者の方とはまだ気持ちの差が大きいと思います。ですが、先日、中学校は適正規模として１学年３クラス、４クラスが規模としては適正ではないかというお話を伺いました。早い機会に、適正規模化するとどういう割り振りになるかをお示しになって、それで皆さんで検討したほうがいいのではないかなと思います。

それから、分離進学の件ですけれども、第三小学校の解消も頭に入れておきたいとすると、再編方針案２も温度差がある中ですが早急に検討する必要があると思います。

それから、もう一つは伊久美のアンケートの結果で出ておりますが、それは特認校あるいは北の奥にある学校の特色というものを大事にされたいことがあるのではないかなと思います。それに代わる特色づくりを早目に方向づけをしてあげれば、伊久美小学校の考え方もアンケートの内容が変わってくるではないかと思っています。

染谷市長　ありがとうございます。

教育長、ありますか。よろしいですか。

濱田教育長　北中学区の話が、北部の学校の話が出ているものですから、その点について少しお話をしたいと思います。

北中の統合については、切磋琢磨する環境、それから原さんが言ったように人間関係の問題等だけでなく、保護者の意見の中には部活の選択制というですか、その意識が高かったと思います。やはり、小規

模の学校においては部活に選択の自由が少ないということが大きかったと思います。特に今まで小学校でサッカーをやっている子供たちがサッカー部を選択できないというような課題があったと思います。そういう意味では、大きな学校に行くことによって、部活の選択、そして切磋琢磨するという環境を確保することについてはいいと思います。

早期にというお話もありましたが、教室としての造りは５クラス対応まで可能なものですから、もう１クラス増えることについては、それほど大きな課題はないと思います。ただ、人数によっては35人を若干名１人、２人オーバーする。ですから、35人学級をオーバーする可能性はあります。ただ、これも附属とか私学進学者がどう出るか分かりませんが、35人学級が成立する可能性もあるということだけはご報告しておきたいと思います。

伊久美小学校の特認校制度については、本当に十分な検討が必要だとは思っています。特認校制度を希望する保護者が今でもたしか４、５名いると思います。ただ、一方で以前10名近くいた特認校制度を希望する保護者がだんだん減ってきていることも確かです。どこまで特認校として残すか、これについては十分な検討が必要ではないかと思います。やはり、小さい学校のよさ、それと小さい学校の課題ということも十分目を向けながらやっていく必要があると思っています。

染谷市長　ありがとうございました。

私は、皆さんのご意見を伺っていて、北中学校区については早期に第一中学校との統合を目指す。その中で、もしかしたら35人学級が36人、７人になる可能性もないわけではないと今教育長からお話がありました。しかし、それも本当に１年とか２年とかいう短い期間であります。そういうことを思いますと、ここはできるだけ早く統合したほうがいいのかなと感じました。

それから、伊久美地域の特色ある特認校として残すことには地域の皆様の意見もあるということであります。そこに一定の理解をするのですけれども、今後ますます子供の数が減っていく中で、後で伊久美が一緒に入ることになると、一緒になりましょうというところから、また段階を踏んで、また別に統合ということになります。全市的な子供の数の減少、特に伊久美地域の子供の数の減少の今後を考えると、特認校として特色ある教育を続けている伊久美の皆さん方のご尽力に心から敬意を表するけれども、子供たちの将来を思うときに、いつの時期なら子供にとって一番いいんだろうと考えました。

それから、今回私どもの議論の中に第三小学校、一中と二中に進学していますが、ここの再編というのは、将来、課題としてある、だから統合は北部と初倉だけの問題ではなくて、市内全体の問題という、そういう問題意識を提議することは大事かと思いますが、しかし今

我々が話をしている北部や初倉とは、少しタイム差があるかなと思っております。学校の改修・改築についても、第四小学校、次、第一小学校、そして老朽化ということを考えると第二小学校もその次の段階に入ってくる。そのときに、この第三小、第二小はさらなる統合の可能性といいますか、それを探ることも大事かなと思っていて、また子供の数が減る中で、北中を統合した中で将来的にもう一つ中学校を作ることについても課題が生まれてくるかなと感じた次第であります。

その時期についても、いろいろご意見があると思うんですが、教育長から伺いましたら、１年は交流の時間を持ちたいということで、例えば北中学校として最短で早急にとしたときに、いつごろならできるのかを、今後検討していかなければならないと思っています。

これは方針が出る時期とも絡むと思っております。その方針が出る時期を見込んで、統合の時期を見定めていく。例えば、来年の８月までということで、そこで結論が出れば、平成の話で申しわけありませんが、32年度に交流をして早くても33年という話になってまいります。そうすると、今いる子はいないんです、という形になります。

もう一つ、私は教育長から話を伺って考えなければいけないと思ったのは、学校の再編に伴って教職員の人事異動、これも定数が減るわけですから、配置にご苦労されるということで、同じ年にたくさん統合ということは厳しいというお話も伺いました。やはり、ここも北中をやって北部をやるのか初倉をやるのかにしても、少し１年ぐらいずつずらしていかないと、学校の先生の人事異動も大変ではないかというお話も伺いましたので、そういったことも合わせて検討の課題に載るのかなと感じた次第です。

ここまでのところでさらに何かご意見がある方いらっしゃいますか。ここは伝えおきたいということがありましたらお聞かせください。

濱田教育長　この統合問題、この提言書の問題から少し離れるような気もしますが、実はきのう税務署の署長さんとお会いしました。そしたら、税務署の署長さんとこの統合問題が少し話題になりまして、特に子供の数の減少が話題になりました。この税務署長さんは三小学区の出身だそうです。島田の出身の方なのですね。そしたら、三小は当時３クラスあったそうです。大変人数が多くて活発な教育活動というのですか、楽しい小学校時代を送ったというお話をしました。

それで、今の三小の人数が１学年大体40人ちょっとくらいなのですよ。45人いるかいないかぐらいの学年が多いのですね。そうすると、昔の45人学級だと１クラスしかないという話になりまして、そんなに人数が減っていることを知らなかったと言うんですね。

これは、北部の平成29年度に生まれた子が18人しかいないということも、地域の皆さんにどれだけ伝わっているのかなとを思います。やはり私たちは人数把握することのできる立場にいますから、切実な問

題として考えています。その中で教育問題も考えますし、必要に応じて統合しなければならならいと考えているのですが、地域の皆さんにおいては、自分の小学校時代、中学校時代を過ごしたときのイメージをそのままお持ちの方も大変多いということです。ですから今後、こういうことの理解を深めるためには、人口問題についていろんな場で発信して現状を理解していただくことも大事だと思います。教育委員の仕事もそこにもあるし、またきょう参観いただいている傍聴の皆さんにもお力添えをいただけたらありがたいと思います。そういう中で、正しい認識のもとに理解を深めることが大事ではないかなと思いました。

染谷市長　ありがとうございました。

今、北部の問題、再編方針の１と２ということで、２については少し時間差があるという中で、今回の方針の中では将来的な課題として挙げていくことという、北部と初倉と同時の課題ではないことについてはご理解をいただいてもよろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

よろしいですか。

はい、では、そのような認識にさせていただきます。

次に、伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校の再編について。これまでもご意見はいただきましたけれども、提言書には島田第一小学校の校舎の改修に合わせて北部の４小学校と島田第一小学校と統合するとありますが、ほかの考え方もあるかもしれません。そのことも含めて自由にご意見を伺いたいと思います。

今度は磯貝委員から、いかがでしょうか。

磯貝委員　私は基本的には、時間的な余裕が余りないのかなというか、アンケートから考えると、できるだけ早く統合する方向で行ったほうがいいのではないかなと考えております。

アンケートから各地区のいろんな問題が見えてくる気配はありますけれども、なるべく早く統合していくのがよろしいのではないかなと、そう思っております。

染谷市長　ありがとうございます。

牧野委員、いかがでしょう。

牧野委員　北部の４小学校の統合についてですよね。

染谷市長　はい。

牧野委員　先ほども言いましたけれども、複式とか単学級のデメリットのほうを解消したいので。

あと、もう一つありました。特別支援の関係もありまして、その充実としても早い統合が効果を発揮するのではないかなと思います。

染谷市長　ありがとうございます。

原委員、いかがでしょうか。

原委員　私もほかの委員と同じで、早い時期での統合が必要なのではないかと思います。アンケート結果でも、要再編、統合を希望している方の人数が大変多いということで、やはり今地域の方や保護者の方がそういう方向に心が動いていらっしゃるという時期を大切にしたいと思います。

４校同時の統合が望ましいのではないかなと思います。伊久美小学校の特別支援の関係もありますけれども、やはり時期を逃すと伊久美地区の数少ない子供が本当に孤立していってしまう可能性もあると思いますので、同一時期での統合を進めることが好ましいと思います。

染谷市長　では、秋田委員、いかがでしょう。

秋田委員　先ほど伊久美小学校地区のアンケートで再編不要と答える方の割合が多いというところで、それは特認校で見えている方もいらっしゃるからではないかという話があったのですけれども、先日教育委員会定例会で伺った第一小学校の改築・改修に合わせた合併となると、平成36年度辺りがそのタイミングになってくるのかなと思います。そうすると今在籍している児童さんたちは、今の１年生が６年生で残っているくらいの時期になるのかなと思います。そう考えたときに、このアンケートの結果をそのまま５年後に当てはめてしまっていいのかと少し疑問に思います。地元の方のご意見と、特認校で見えている方のご意見というのを分けて考えたほうがいいのかなと感じました。

それで、特認校制度ですけれども、私も特認校で通った子を何人も知っておりまして、本当にいい制度だと保護者の方からのお話も聞いています。なので、本当に特認校という制度は、残していけるものであればという気持ちもあるのですけれども、数も減っているというところもありますので、その特認校を利用したい方のニーズ、何を求めて特認校を望むのかというところを、具体的に把握して、では特認校がなくなった場合にどこでフォローができるのか、具体案みたいなものを出していけると、そこの再編不要の意見の部分については、もう少し変わってくるのではないかなと思いました。

あと、伊久美は第一小学校のほかに川根と統合してとアンケートの結果も出ているんですけれども、その辺りについてはどうなのでしょう。具体的にあり得る話なのか、北部４校は４校として一小へと考えたほうがいいのか、その辺りのことを少し教えていただきたいのですが。

染谷市長　教育長、答えますか。

濱田教育長　伊久美小学校の子供たちを川根小学校に行かせることについては、交通の利便性を考えますと大変難しいと思います。そう考えますと、やはり統合するのだったら第一小学校ではないかなと思います。

もう一つ、考えなければならないのは、例えば希望者によっては川根小学校への編入を認めていくということは必要だと思います。地理

的なことを考えますと、一小に通うよりは川根小学校に通うほうが便利だという子供たちも出てくる可能性があります。指定校変更ということは制度的にできるものですから、子供の希望に応じて川根小学校も選択肢の中に入れるということはあっても、全員を川根小学校に統合することについては課題が大きいかなと思っています。

秋田委員　ありがとうございます。

染谷市長　ありがとうございました。

では、私のほうから。

皆さんのご意見を伺って、北部の４小については、川根小学校のほうが近いお子さんは別として、４小の中に拠点を設けるのではなくて、４小一遍に第一小学校と統合したほうがいいというお考えの方が全員だと認識をいたしました。私のほうで行政的な課題としてあることは、先ほど秋田委員からもありましたが、第一小学校は平成36年３月までに完成をして、36年４月に新校舎に子供たちが入れるというスケジュールになっております。

そうすると、この統合を決めることによって、校舎の中の教室の数だとか、改築なのか改修なのかとか、そういったことも決まってきますので、こちらも早目に方針は出さないとできない。そして、新しい校舎にみんな一緒に入るというのは、やはり北部の子供たち、そして保護者の皆さんにも、また第一小学校、第一中学校という一貫教育を目指していけるという、大きな期待もあろうかと思っています。５年先になってしまう、６年先になってしまうという話も出ておりますが、キャパの問題からしても、やはり北部４小を一緒にするのはその時期が最短かなと行政としては考えております。このことについてはまた皆さんのご意見をさらに教育委員会で伺いながらと思いますが、一つには北部４つの小学校を統合することを第一に考えていくということ。そして、その方針が、第一小学校の改築・改修にも関わるということにご理解をいただくということ。特認校については特認校を希望される方々のニーズがどこにあるのか、特認校の何を大事にしたいと思っておられるのかについては、それをその後どのようにフォローしていけるのかを併せて考えていかなければならないと思いました。

今の第一小学校のキャパで、それより早く受け入れるというのは事実上難しいんですね、教育長。

濱田教育長　今の第一小学校の校舎、大変古い上に、さまざまな教室の使われ方をしているものですから、改築間際の校舎を新たに手を入れて教室を整備して受け入れて、すぐにまた解体して新しく改修するのか分かりませんが、それというのは費用的に大変効率の悪いことだとを思います。保護者の中にはできるだけ早期に統合するという声も確かにあったと思います。36年または37年の統合といいますと、今の在校生の話ではない、もうそのころには卒業しているというお話も確かに聞きま

したから、早くという選択肢はあると思うのですが、予算を効率的に使っていくことを考えますと、新築前に子供たちを一緒に入れる、要するに統合することについては、課題は大きいかなとを思います。

そういう意味では、第一小学校の新築の校舎に統合した子供たちが新たな気持ちで入っていくほうがいいのではないかと思います。

またもう一つ、統合してすぐにプレハブ校舎で学ばなければならないということについて、統合を受け入れた保護者の立場からして、どうかなということもあります。ですから、早いことを望む保護者の気持ちは十分に理解できますが、やはり第一小学校の新築に合わせるほうがいいのではないかなと思います。

染谷市長　これについては皆さんも同じような考えということで、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

ありがとうございます。

では、再編の方針案②に示されている、先ほどもお話をいたしましたが、第三、第二小学校の再編方針案でございますが、これらについては、北部の４小学校、あるいは北中、一中の再編方針案を行った後ということで提案をされておりますが、これについて先ほどお話ししたように、タイム差があるという認識でよろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

ありがとうございます。

では次に、初倉地区についてご意見を伺ってまいりたいと思います。

再編方針案が１つ示されており、今は湯日小学校と初倉小学校を統合するということが望ましいとあります。早期再編を望む保護者も多いと提言書には書かれております。この湯日小学校と初倉小学校との統合について皆さんはどのようにお考えでしょうか。あるいは、初南小も含む初倉地区の小学校の再編という、少し広目のご意見でも構いません。ご意見を伺ってまいりたいと思います。

今度は秋田委員から、よろしくお願いいたします。

秋田委員　湯日小については、保護者の方、地域の方、統合を希望される声も多いので、再編という方向で動いていけるのかなと思うのですけれども、初倉南小学校について、アンケートの結果がどちらでもよい方が50％。何て言うのでしょう、余り自分ごとになっていないのかなというのが正直なところです。初倉南小の地区は、しばらく子供の数もそれほど大きな変化が見られないようなので、そういったところからも地域の方々がどの程度再編の必要性を感じているのかなというところはあります。

それと同時に、初倉南小も再編に入るとなると、小中一貫の中に入る、そうしたときにこういうメリットがあるよ、こういういいところがあるよという情報も恐らく初倉南地区の保護者の方には伝わってい

ないのかなと、このアンケートの結果を見るとそのように感じております。

なので、初倉南小についてはもうちょっと保護者の方のご意見というかお気持ちを確認したいところがあります。

染谷市長　ありがとうございます。

次、原委員いかがでしょうか。

原委員　私も秋田委員と同じ考えですけれども、湯日小の保護者、地域の方におかれましては、やはり早く大勢の方が統合を希望していらっしゃると思います。ですから、地域の方もいろいろ周りの状況や子供の様子を見ながら、この再編の必要性を感じていらっしゃるのではないかなと思います。やはり初倉南小につきましては、まだ地域の方たちが自分ごとではないというか、自分たちの学校は人数も大きな変化もなく安定した学校生活が今と同じようにこれからもまだ続けられるという思いでいらっしゃる方が多いと思いますので、再編についてはもう少し今の状況をお知らせする中で、全体の問題として考えていくことが必要ですよというお知らせをしていく必要もあるのかなと思いました。

染谷市長　ありがとうございます。

牧野委員、いかがでしょう。

牧野委員　私も初倉中学校学区の人数の推移が、あと、この資料の６年先までそれほどひっ迫している数字ではございませんので、徐々に減っていくということは意識的に皆さんにお伝えはしなければなりませんが、初倉小学校と初倉南小学校の統合についてはもう少し後、審議をもっと深めてからでいいのではないかと思います。

ただ、湯日小学校については、もう今現時点でも地元の方のご意見を伺っていますので、これは早急にお願いしたいと思います。

染谷市長　分かりました。

磯貝委員、いかがでしょう。

磯貝委員　皆さんと大体同じですが、湯日小学校と初倉小学校の統合については、湯日小学校のアンケートからもなるべく早くというのが望ましいのではないかと思います。初倉南小学校区については、皆さんおっしゃったとおり、まだ自分のこととして考えていらっしゃらないのではないかという傾向があるというのはそのとおりで、前の議論でも出たように、ご父兄の意見の把握がまだ不十分ではないかという点がありました。ですから、この辺りをなるべく早くやられて、統合に向けての気運といいますか、そういうものを実施したほうがよろしいのではないかなと思います。

湯日小学校が統合するのと、それから初倉南小学校の統合が一緒の時期になれば合理的でいいのか分かりませんけれども、その辺りの難しい問題があるとは思うのですが、ご父兄の意見の把握を初倉南地区

でもう一回やるべきことなのかなと考えています。

染谷市長　ありがとうございます。

教育長、意見ありますか。

濱田教育長　先ほど、初倉南のことについては少し発言をしたものですから、同じことを言うことになるかもしれませんが、やはり今磯貝委員がおっしゃったように、保護者の確認は早期に必要だと思います。当然、その裏には、きちっとこの現状をお伝えした上でアンケートなりをとって、その中でどうするべきかは考えなければならないと思います。

それからもう一つ、先ほども少し話ししましたが、自治会の方からの一部かもしれませんが、同時統合の話を私も直接聞いています。この考え方が、どこまで広がっているものなのか、地域のコンセンサスを得られているものなのかと、また一方で私も確認をしたいところです。

一般的に、統合問題というのは地域が反対、保護者が賛成という構造が多いのですが、私の感触としては、初倉の場合は若干、地域も賛成しているところがないではないという、ちょっと中途半端な表現ですが、地域の中にも初倉南との同時統合を望む声もあることは確かです。ただそれがどこまで広がっているかについては確認も必要かもしれません。その辺りをトータルに考えて、この問題については進めていくべきことではないかなと思っています。

染谷市長　ありがとうございます。

私も、教育長と同じようなことを思っておりまして、南小学校区は月坂、岡田、井口、南原という４つの自治会が学校区になっております。この４つの自治会の自治会長がそろって、同時に統合してもらいたいんだと言っています。そのために自分たちは保護者の意見を聞く場を積極的に設けていきたいと思っているので、できるだけ早くにやってもらえないかということを直接要望として伺いました。

私どもは、初倉南小学校はできてからまだ歴史は浅くて、築山を作ってくれたり、学校整備に保護者の方たちが随分力を尽くしてくださってでき上がった学校です。そういう愛着ということから考えると、むしろ初倉小学校と一緒になることに対して抵抗感があるのかなと思っていたんですね。ところがそうではなくて、一緒に特色ある小中一貫校をやってもらうほうが初倉住民としてはありがたいという意見が上がってまいりました。

それと、もう一つ私の中の観点、視点として、湯日小学校は早くに統合したほうがいいという皆さんの意見はそのとおりです。なぜかと言えば、人数が少なくなってきて、子供の数が少数であることのデメリットをカバーするために、そこに一歩踏み込んだ特色ある教育として、では何ができるのかと言ったら、初倉小学校と一緒になって少し大きな人数でやるという教育だと思うのですね。

私ども、やはり島田のこれからの教育を考えるときに、先ほど来、小中一貫という話も出ておりますが、いかにそこに島田の教育としてのメリット、保護者の皆様方や子供たちにとって魅力的なメニュー、取り組み、こういったものを載せられるかということだと思っていて、湯日小学校が初倉小学校と一緒になっただけでは、規模が少し大きくなるだけなのですね。ここにいかに特色のある教育をつなげていけるのかを考えることが、北部でも初倉でもこれから大事な島田の教育、これまでも４年かけて子供を第一にと考えてきた私どもが、これから先にさらに考える必要のあることなのかなと思っております。

時間の関係がありますので、次に進めさせていただきます。

提言書には、将来的には初倉南小学校を現在の初倉小学校に統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫校とすることも検討すべきとあります。初倉南小学校の再編につきましては、保護者の皆様方が自分ごととして考えていない段階だという皆さんのご意見がありましたので、議論が成熟していないということについては、きょうも話題に出たところではございますが、この小中一貫の学校を目指すことについて、皆さんのご意見はありますでしょうか。特に、初倉地区の再編の方向性の中で、今は議論をいたしております。

ご意見のある方、お願いをいたします。

一般的な小中一貫ということでもよろしいですし、島田の教育を10年以内にというのは難しいです。大分先の話になると思います。しかし、できるところから小中一貫という形の中で、新たな義務教育学校のカリキュラムを作っていくことに関していかがでしょうか。

教員の経験のある原委員、いかがでしょうか。

原委員　以前、初倉中学校で研究発表会をやったときに参加させていただいたことがあるんですが、そのときやはり小学校と中学校の連携という内容の発表が入っていたような思いがあります。現在もそれが引き継がれているのではないかなと思います。それから、地域の寺子屋の関係でも大変活発に地域と中学校が関わりを持ちながら、教育を進めていらっしゃるというのを思うと、本当に地域と学校が密接に関係ある地域なのかなと思います。

初倉小と初倉中も隣り合わせというか大変近い地域にありますし、先生方の行き来もほかの学区に比べたら行いやすいのではないかなと思いました。

同じ土壌を持っていて学習を進めている、そう思いますと、カリキュラムの関係でも、もしかしたら小学校は小学校でやっていた場合に、小学校でやった総合の内容をまた中学校で似たような形でやっているというところもある部分も見ることがあるのですけれども、そういう意味では、学びの内容が同じ地域を土台にしているので、一貫性が出てくるかなと思います。

先生方の行き来もしやすいということは、教科担任制で考えたときに、短い時間で先生方の移動ができて、授業にも集中できる可能性もある。その可能性を考えたときに、他地区よりもより初倉地区は小学校と中学校が一つの目標を持って、同じ整理された教育課程の中で授業が実施できていく可能性の高い地域ではないかなと思いました。

染谷市長　ありがとうございます。

ほかにご意見はいかがでしょうか。

牧野委員　地域の社会教育、それから文化活動の拠点としまして、初倉公民館を中心に周辺の小・中が固まっていまして、私は金谷ですが、よそから見ますと非常にまとまっているので、そういった意味からしても、一貫校の作りやすい環境にあるのではないかと思います。

それからまた、住民意識も初倉という意識の高い方々が非常に多いので、理解が得やすいのではないかなと思います。ですから、市内では一番先にといいますか、形になりやすいのではないかなと思います。

染谷市長　秋田委員、いかがですか。

秋田委員　子育てをする中で、やはり中１ギャップではないですけれども、小学校６年生から中学校１年生になると、今までと全く同じ３月から４月への変化なのに、これだけ子供たちは戸惑うのかって、親もその戸惑いに対してどうフォローをしていいのか、何人子供を育ててもなかなか正解にたどり着けずにいるところなのですけれども、そういった意味でも子供たちを小中一貫で９年間つなげて見ることができるというのは、子供たちにとっても大きな安心感につながるし、戸惑いも減っていくのではないのかなと思います。それは初倉地区に限ったことではないのですが、勉強の仕方一つとっても、小学校と中学校では随分違っていて、その違いに気づいてすぐに変えていける子とそうでない子と、やはりそこがすごくはっきり出てしまう、とこのごろ感じています。

初倉地区は本当にいろいろな方、公民館も巻き込んで、学校と公民館でしたりとか、あと寺子屋に中学生がボランティアで入ったりとか、いろいろな形で交流の活動がされていますので、島田市内のモデル地区としていい形が示していけると、ほかの地域でもまた進めていこうという話になっていくのかなと思います。そういったメリットが情報として出されると、先ほどの統合の話も初倉南の保護者の方も、地域の方ではなくて保護者の方の意識というものも変わっていくのかなと思いました。

染谷市長　ありがとうございます。

磯貝委員、いかがでしょう。

磯貝委員　私もよく知らなかったのですけれども、初倉地区というのは昔から団結するような力が強い地区というようなことを印象として前から持っていました。今回、この統合についていろいろ考えさせられること

もあったのですけれども、小中の一貫教育と考えれば、そういう地区の特性を考えて例えばスポーツのクラブだとか、それから実際のカリキュラムの中では、例えば弁論大会だとか、それから合唱コンクールのようなものに向けて、小学校の中学校の、例えば合同チームみたいなものができれば、そういう格好で進めていければ僕はいいなと考えています。

染谷市長　ありがとうございます。

教育長、ありますか。

濱田教育長　今、初倉地区の話が出たのですが、初倉地区は今、夢育・地育の指定をしています。その研究の成果というのは、確実になって確かなものがあると思います。例えば、夢を持っている子供たちの割合が全国よりかなり高いとか、地域活動に参加した子供たちの割合が、たしか中学校では30％くらい全国より高いと思ったんですね。そういうように夢育・地育の成果というのは上がっていると思います。これにプラス、小中一貫の考え方というのが、すごくマッチングしていると思います。簡単に言うと、地域の教育力を生かしながら、小中一貫を進めることになると思います。そういう意味では、今の夢育・地育にプラス小中一貫というのは大変相性がいいと思います。今でも初倉中学校の体育の先生が、小学校へ行っています。それから、ＡＬＴが全ての学校を回っています。そういう意味では、小中がまだ一貫とは言えませんが、密な連携の中で教育活動をしていますから、一貫にともう少し進めることも、それほど抵抗なく進むのではないかと思っています。

場所は変わりますが、川根地区においても小学校１校、中学校１校で大変密な教育ができています。中学校の英語の先生が小学校に行くということも実際できています。秋田委員から中１ギャップという話がありましたが、中学校の先生が小学校で教えるということは、子供たちが中学校へ行ったときに、自分の教わった先生がその学校にいる、相談しやすいということも起こってくるわけですね。そういう意味では、今後も小・中の兼務というのですか、小学校の先生が中学校へ行ったり、中学校の先生が小学校へ行ったりということを進めていく必要は島田市としては大きいのではないかと思っています。

やはり大事なことは、一貫が目的ではなくて、子供たちの教育の充実と考えますと、一貫プラス地域の教育力の向上と地域との連携、ここを合わせ技でやっていかないといけないと思っています。

染谷市長　ありがとうございました。

皆様方が一貫校のメリットを深く理解をしていただき、いろんな意見があるということを理解しました。まさに地域の教育力を高めながらというところが一つのポイントになるのかなと思っています。今、初倉地区は小・中連携ということで、夢育・地育を初め、大変成果の上がるさまざまな取り組みをしております。これを一歩進めて一貫校

を作っていくとすれば、この初倉地域が第一歩となるのかなと、可能性が高いと感じております。近接しているという意味でも、初倉小学校と初倉中学校、それから北部でいえば第一小学校と第一中学校、共に本当に近いところにありますので、こういったところは今後一貫校の流れということも実現しやすい場所であると思います。

また、こういった義務教育学校を作ることであれば、新たな学校名を皆さんから募集をしたり、今までとは違う学校ができるということに対して、私どもが広報していく手段もあるかなと思いました。

きょうの皆さんのご意見を通して、私どもの思いに差はないといいますか、ほとんど同じお考えを皆さん持っておられるという共通認識を得られたことは大変うれしいことでありました。多くのご意見をいただき本当にありがとうございます。

そろそろ時間もオーバーをしておりまして、短い時間でありますけれども、率直な意見交換ができたと心より感謝を申し上げます。

皆さんからいただいたご意見をもとに、今後学校の再編に取り組んでいくことになります。再編に当たっては地域の皆さん、保護者の皆さん、皆さんいろんな考え方があって、課題も多くあると思っておりますが、提言書の副題にもありますとおり、最後には子供を最優先に考える学校づくりというのが、目指すべき姿だと思います。これに向けて行政と地域が同じ方向を向いて歩んでいければと思っています。学校再編につきましては、詳細が決まった段階で、あるいはそれ以前にでも皆さんのご希望に沿って、この総合教育会議で話し合いたいというお声があれば、何度でもこの会議の席上でも学校再編について協議をしてまいりたいと思います。そのぐらい大事な課題だと思っております。

それでは、この辺で第２回の総合教育会議を閉会させていただきたいと思います。

最後に何かお話のある方がいらっしゃいましたらお願いをいたします。よろしいでしょうか。（なし）

本日はお忙しいところ、本当にありがとうございました。

事務局に返します。

畑教育部長　それでは長時間にわたしまして、大変熱心な、そしてまた再編にかかわります本質的なことにつきまして議論をしていただきましてありがとうございます。

本日の総合教育会議におきましては、今後の小・中学校の再編の方向性について今市長からお話がありましたとおり、共通の理解という形で諮られたのかと思っております。具体的には、初倉地区におきましては、初倉南小学校の保護者あるいは地域の意見を聞いて、地域の意見も深めながら検討していくということと、あと北部につきましては、２案ありましたけれども、そのうちの１案について主体的に進め

ていくということと、一中、北中の統合を早期に実現を図っていくということ、そして同じく北部につきましては、北部４小学校が一緒に第一小学校へ統合していくのがいいのではないかということと、伊久美小学校の話もありましたとおり、希望者にとっては指定校の変更もあり得るのではないかというお話をいただきました。それで、統合等の時期につきましては、第一小学校の改修とも関わっておりますので、改修の終了後に行っていったらどうかということで、一中と北中の統合よりも若干後年度に改修時期を見据えてやっていくという話もございます。

最後には、初倉地区におきまして小中一貫ということの優れている特徴だとか、初倉地区において先駆けてやったらどうかという、そういった大変貴重なご意見をいただいております。

この総合教育会議につきましては、民意を代表する市長と教育委員の皆様が協議して、その教育の方向性を決める場でありますので、これからも関係を密にして取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして第２回目の総合教育会議を終了いたします。本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉　　会　　午前11時44分